

最優秀賞

「小学生の部」

ぼくたち、私たちの生活

中村小学校 六年 森 智悠

ぼくにはおじいちゃんが一人しかいません。おばあちゃん

は一人もいません。しかもたつた一人のおじいちゃんは、離れた場所に住んでいます。だから、ぼくはいつもいろいろな所でぼくたちを支えてくれている、そして、生活の中にいる、中井町のおじいさん、おばあさんについて考えました。

一人目は近所のおばあちゃんの事です。おばあちゃんはだいたい八十才位です。ときどき戦争の話を聞かせてくれます。遠いところから来た、知らない人が、

「お米とかおいもをほしい。」

と言つてきたそうです。そこで布や着物と交換してあげたそうです。他にもアメリカのジープが来たとか、軍の飛行機がすぐ飛んでいたとか、その時の様子をよく話してくれました。生活もやっぱり苦しかったそうです。大人も忙しく、自分でできることは、全部やつたそうです。もちろん、手伝いもしたそうです。

そういうつた大変な思いをした面を持つてゐるおばあさんですが、明るい一面も持つています。それは、畑仕事です。坂を上つて畑に行き、キュウリやオクラなどを作つています。一番の目玉は玉ねぎです。毎年毎年がんばつて、がんばつて育てています。その野菜もぼくの家に届けてくれて、いつもおいしく食べています。

二人目は、中井町のお弁当屋さんのおばあさんです。学

校帰りや犬のお散歩の途中で会います。その時、バナナやおかしをくれます。でも、それだけではありません。うちの犬のことをほめてくれたり、やさしく声をかけてくれた

りします。とても親切なので、いつも会えることを楽しみにしています。

三人目は一人ではありません。改善センターの図書室や

生涯学習課のおばさんたちです。いつもやさしく、いろんなことに応えてくれます。例えば、今、おすすめの本を教えてくれたり、ぼくが好きそうな本を探してくれたりします。パソコンで調べても分からぬ時は、教えてくれたり、いろいろ手伝つてくれたりもします。

こんな風にいろいろなおじいちゃん、おばあちゃんがぼくたち、私たちの生活を手伝つてくれています。太鼓のおじさんたちとかもそうです。いろいろな場所で、いろいろな人たちに支えられて、今のぼくたちは生活していると思うのです。ぼくも大人になつて、おじいちゃんの年れいになつたら、いろんな人から頼られる、頼つてもらえる人になりたいです。小さい子たちを支えられるような人になりたいと思います。

私には、心から尊敬している人のおじいさんがいます。

一つ隣の家に住んでいる方で、私のことをかわいがつてくれる心優しい人です。私はそんなおじいさんが大好きです。

学校帰りによく会うのですが、おいしそうなミニトマトをくれたり、美しいカワセミの写真を見せてくれたり、と

ても親切なおじいさんです。それにとっておもしろくて、元気な人です。昔の面白い出来事を話してくれたり、家族についても楽しそうに話してくれたりしました。いつも帰りが、楽しみで楽しみで仕方ありませんでした。

でも、私が五年生になつた時から、話す機会が少なくなりました。「私のこと、嫌いになつちやつたのかな。」とか、「なにがあつたのかな。」とか、不安で嫌な事ばかり考えていました。

## 私の大好きな人

中村小学校 六年 小澤 優衣

そして時が経ち、一つの封筒が渡されました。「何だろう。」と疑問を持ちながらも封を外し、中をちらりと見てみました。そこには、キラリと光つた五百円玉があつたのです。家族からはお年玉をもらつたはず。不思議な気持ちでお母さんの方を見上げてみると、お母さんは笑顔でなかしい名前を口にしました。あのおじいさんでした。私もお年玉をくれたのです。私は喜びを隠しきれず、何度も何度も飛び跳ねました。とにかく、うれしくてうれしくて喜びの絶ちようでした。

しばらくして冷静さを取りもどした後、何か恩返しがしたいなと考えました。あれこれ考えて、ようやく一つの案を思いつきました。その名も「バレンタインデー大作戦!!」言葉ではうまく言えない思いをチョコにめいいっぱい注ぎ込んで、おじいさんに渡したい！

気付けばその思いは日に日に強くなつていきました。この作戦を考えついた後、すぐに準備に取りかかりました。

大量の板チョコを買って、自分の手でじっくりにこんで作りました。今までで一番がんばったと思います。とてもつかれましたが、同時に言葉にできないほどの感謝の気持ちをうまく伝えられたらしいなとも思いました。

ついにその日がやつてきました。前々から覚悟を決めていたつもりだったのですが、いざとなるときんちょうでどうにかなりそうだつたので、おばあちゃんについてきてもらうことになりました。そして、喜びと不安が混ざつたような気持ちで、おじいさんの家のインターホンをゆっくり押しました。たつた数秒ほどなのに、私にとつては、一分位に感じました。そして、ドアがまるで生きているかのように、すうーっと開きました。そして、あのおじいさんが出てきました。私はあせりました。三日間、話す内容を考えていたはずなのに、たくさん話す練習もしていたはずなのに、まるで風になつたかのように吹き飛んで行つてしましました。そのままちゃんとが流れる中、ついに決

心した私は、

「この前のお礼です。」

とだけ言って、おじいさんにがんばって作ったチョコを渡しました。

すると、おじいさんは私が思つた何倍も喜んで、ギュッとだきしめてくれました。言葉にはしないけど心の中

で「やったー」とさけびました。そして、来年もチョコを作つてプレゼントしようと思いました。

私は面白くて優しいおじいさんが大好きです。だからこの先もずっと元気でいてほしいです。私もおじいさんが今までしてくれたその分、恩返しをしていきたいと思います。

わたしのおばあちゃんは、わたしの家の近くに一人で住んでいます。いつもやさしいおばあちゃんです。

おばあちゃんは毎年わたしの誕生日にケーキを作ってくれます。わたしは、お兄ちゃんが3人いて、お兄ちゃんの誕生日にも作ってくれるので、毎年何回もケーキを作つてくれます。

おばあちゃんがケーキを作ってくれる日は、スポンジがやけるいいにおいがします。スポンジがさめるとわたしがかざりつけのお手伝いをします。生クリームをあわだてて、いちごをかざります。大きいチョコレートに「お誕生日おめでとう」の字を書きます。買ったケーキがいいなと思うこともあったけど、やっぱりおばあちゃんが作ってくれるケーキが大好きです。おばあちゃんが作ってくれるカス

やさしいおばあちゃん

井ノ口小学校 四年 井上 久実



テラやゼリーもおいしいので大好きです。

いつもおばあちゃんの家に行くと、おかしやアイスクリー  
ムを用意してくれています。おばあちゃんは車のうんてん  
ができないのに、わたしたちのために自分が食べないおか  
しも歩いてスーパーまで買いに行つてくれます。

おばあちゃんは、野菜作りもがんばっています。今は畑  
できゅうり、トマト、なす、ゴーヤ、インゲンなどの野菜  
を作っています。庭にはお花もたくさん植えています。も

う七十一さいなのに暑い日も寒い日も畑に行つて、草むし  
りをしたりたがやしたりしています。畑に水をまくために  
お米のときじるをためていて、いっしょうけんめい水やり  
もしています。自分で作った野菜をわたしたちにくれたり、  
おいしい料理を作ってくれたりします。

今までのことを思い出すとおばあちゃんはいつもわたし  
たちにやさしくしてくれていると思います。いつも自分の  
ことよりわたしたちのことを考えててくれています。学校で

あつたことや楽しかったことを話すと、いつも楽しそうに  
聞いてくれます。そんなおばあちゃんが大好きです。

わたしはおばあちゃんみたいにやさしくてお料理が上手  
な人になりたいと思います。おじいちゃんは病気で死んで  
しまったけど、おばあちゃんは病気にならずに長生きして  
ほしいです。そしていつかわたしがケーキを作つておばあ  
ちゃんに食べてもらいたいです。



## 僕の大切な人

井ノ口小学校 六年 田村 陽生

のある日は、車でやる場所まで野球とかの話をしながら送つてくれるので、とても助かっています。

おばあちゃんは小さい時から今まで食べ物をくれたり、美味しい高級な食べ物とかを買ってくれました。

僕には、おじいちゃんとおばあちゃんがいます。おじいちゃんは野球が好きで、おばあちゃんはおいしい食べ物を作つたり、買つてくれたりしてくれる優しいおばあちゃんです。

ポーツの習い事を応援してくれています。

小さいころ、僕は電車や公園の遊具で遊ぶのが好きでした。3才～6才ぐらいの時、おじいちゃんが電車を見に連れてつてくれたり、家で遊んだりしてくれました。

僕は言葉を話すのが苦手で話すことがはずかしくて、小さいうろにたくさん話すことが出来なくて今思えば後悔しています。今も話すことが苦手で自分では悩んでいますが、おじいちゃんとはたくさん話をしていて、特に野球の話をしています。それから4才のころ自転車の乗り方を教えてくれて、上手に乗れるようになりました。今でも、習い事

ごはん、パン、うどん、からあげ、フライドポテト、えだ豆、いちごしか食べることが出来なかつた僕ですが、おばあちゃんは親切に僕の好きなフライドポテトとかをたくさん食べさせてくれました。だけど、嫌いな食べ物が多いと学校とかで困りました。僕は一年のころ毎日のように残していました。今も話すことが苦手で自分では悩んでいますが、一年の後期から嫌いな食べ物を克服して食べることを決意しました。そこから完食できる日々が続いておばあちゃんは喜んでくれて、自分も嬉しくなりました。今は嫌いな食べ物はほとんどなくてそこまで困らなくなりました。

僕のおじいちゃんとおばあちゃんには、いつも感謝しています。これからも、おじいちゃんとおばあちゃんと仲良く、長生きしてくれるように僕も支えられる立場になりました。

## 「中学生の部」

### いつものおばあちゃん

中井中学校 一年 曽我 礼夏

私のおじいちゃんとおばあちゃんは一緒に住んでいます。物心つくときから一緒にいたので、おじいちゃんとおばあちゃんがいるのが当たり前でした。

小さい頃のビデオを見たりすると、お母さんやお父さん兄弟などと写っている中に数多くのおじいちゃんとおばあちゃんとのビデオがあります。おじいちゃんと一緒に食べ

ている様子やおばあちゃんと遊んでいるビデオなど沢山あります。そこにはみんな楽しそうな笑顔で写っていました。小学校高学年になるに連れて授業の時間がが多くなつたりクラブや習い事があつたりして、一緒の家に住んでいても話す時間や一緒にいる時間が減ってしまいました。それでも、お互いの誕生日や敬老の日、子どもの日などプレゼントを送り合つたりしておじいちゃんとおばあちゃんとの時間を大切にしました。

そんな中でおばあちゃんが病気になつてしましました。最初は元気でなんにもありませんでした。けれども日に日におばあちゃんの体調が悪くなつてしまい、入院することになりました。おばあちゃんが入院すると家族全員が寂しくなりました。そんな中で一番寂しいのはおじいちゃんだと思います。いつも一緒にいたので、その分寂しさが多いと思います。そして家事など分担をしていたのがいきなり一人になつてしまいました。私の家は一緒に住んでいるも

のの部屋が違うので、掃除などは別々でやつていました。

けれども二人分の家事を一人でやるのは大変ということでは家族全員で家事分担することにしました。いとこなども手伝いに来てくれてなんとか家事をみんなで、協力してやることができました。

そしておばあちゃんは手術することになりました。詳しくはわかりませんが、かなり大掛かりな手術だったそうです。手術後、お母さんやお父さんが駆けつけて行つてくれました。私達にはできることが少なかつたのであまり役には立てなかつたけれども、無事に手術は成功し退院して、家に戻ることができました。私達家族は一安心しましたが、そこからが大変だつたのです。退院した後、半年はうまく歩くことができませんでした。トイレやお風呂など今までできたことが急にできなくなつてしましました。一番ショックだつたのはおばあちやんだつたと思います。数ヶ月前までは普通にできていたことがいきなりできなくなつてしまつ

たからです。もし自分として考えてみたら、今テニス部で走つたり打つたりしているけどそれもできなくなりますし、体育の時間もみんなと一緒に授業できなくなると思います。考えただけで苦しくなります。そんな状態になつているおばあちゃんを家族全員受け止めてみんなで看病しました。

私達もできることは続けてやりました。みんなが看病していくて忙しいので、家事をやつたりしました。そして、おばあちゃんは一人で歩けるようになりました。これは家族全員で協力した印です。今では散歩をしたり家事をやつたり前のおばあちゃんに戻つたみたいです。

そして私達家族はより団結することができます。家族全員で協力して団結しようと思つても、簡単にはできません。ただ今回の出来事により苦しい思いや悲しい思いもしましたがいいこともあって、経験つて大事だなと思いまし

た。初めて家事をたくさんやって大変さがわかつたおばあちゃんがいないとどれだけ寂しいか、家族一人がかけた

らどうなるか私達家族全員に教えてくれました。この経験で学んだことを忘れずに生かして、毎日を大切にしたいと思ひます。

